

ニュース

みんなで作つくろう！  
しまやけべいせき  
下宅部遺跡はっけんのもり

第87号【'08-9月号】

発行：下宅部遺跡  
はっけんのもりを育てる会  
東村山市諏訪町1-6-3  
TEL：042-396-3800  
発行日：平成20年9月5日

# 下宅部遺跡はっけんのもり 水生生物調査報告

石橋 康夫

## エビは大繁殖

「はっけんのもり」復元河道の水生生物の調査は「継続」することが大事だということでも今年も行いました。今年の調査は、トトロのふるさと財団調査委員会のほかに「所沢源流の会」からも参加をいただき、八月一六日（土）におこないました。

### 参加者

育てる会（竹野、山本、西山、鹿村、阿由葉、千葉、石川、早川、石橋）トトロのふるさと財団（菊一、船木、深澤の各氏）所沢源流の会（小黒、大貫、高橋の各氏）総合計一六人の参加でしたが、夏休みとはいえ、お盆と重なったため一般の参加はありませんでした。（来年は日程を検討の予定）

### 調査方法

前日（一五日）午後六時に、会員有志で昨年を使用したペットボトルを加工作成した「ビンドウ」に煮干しとザリガニ用として市販されているエサ

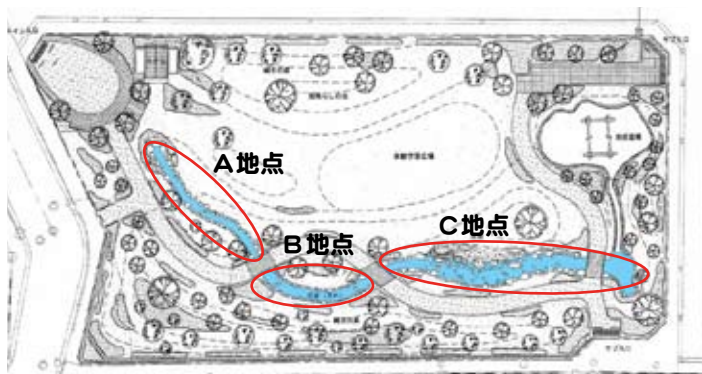
（この調査では「エサ」と表示）の二種類それぞれと、その両方をセットにしたしたもの、他に市販のイトミミズを入れたものを仕掛けた。そのビンドウを調査当日引き上げて、入っていた生物を調べた。その後、参加者それぞれのやり方で、復元河道に入り、生物を採取し、それを持ちより調査した。

### 調査の結果

表の通りであるが、大繁殖をしているエビについては「ヌマエビ」とした。

### 調査結果についての検討

1. エビの繁殖は驚く程であるが、アメリカザリガニも表にあらわれて



|     | ①ニボシ                | ②エサ                | ③ニボシ+エサ             | ④イトミミズ                       | アミ捕獲                  |
|-----|---------------------|--------------------|---------------------|------------------------------|-----------------------|
| A地点 | ヌマエビ 11, アメンボ 1     | ヌマエビ 33            | ヌマエビ 25, アメリカザリガニ 1 | ヌマエビ 1, アメリカザリガニ 1           | ヌマエビ 3                |
| B地点 | ヌマエビ 60, アメリカザリガニ 2 | ヌマエビ 4, アメリカザリガニ 1 | ヌマエビ 14, アメリカザリガニ 1 | ヌマエビ 100, アメリカザリガニ 1, カゲロウ 3 | ヌマエビ, アメリカザリガニ, イトミミズ |
| C地点 | ヌマエビ 9, アメリカザリガニ 1  | ヌマエビ 1             | ヌマエビ 34, アメリカザリガニ 2 | ヌマエビ 1, アメリカザリガニ 3           | カゲロウ, ヌマエビ, アメリカザリガニ  |

調査位置と調査結果



ガガンボの幼生



アメリカザリガニとヌマエビ  
ヌマエビは抱卵個体も多数確認された。



エゴノキの果実

## はっけんのもりの植物⑪

# 「エゴノキ」

石橋 康夫

1. いる以上に繁殖していると思われる。
2. トンボの産卵行動は確認されたが、ヤゴが一匹もいないのは気になる。エビザリガニの餌食になっているのでは、という説も可成り有力である。
3. ガガンボの確認は、この調査ではじめてである。
4. 貝も網にかかっていないが、調査日前は雨が少なく、水量が少なかった

ために、調査員の捕獲活動がやりにくかったことも考えられる。

その他

はじめて参加していただいた方から「水場遺構」その他「はっけんのもり」について質問があり、調査終了後に石川学芸員より「はっけんのもり」の各部分について説明が行われた。

エゴノキは初夏の頃、八国山で一斉に白い花を咲かせ、きれいである。はっけんのもりにもエゴノキを植えた。この木は巨木にはならないが、その昔、結構手頃で杭や農具にするのに有用な樹木だったのでないかと、下宅部遺跡からの出土状況をみて推測されている。

今みたいに何でもプラスチックになる前は、ろくろ（轆轤）細工に使われていた。子供の頃遊んだコマなども、材の白い物が沢山あったのを思い出すが、恐らくエゴノキなどもつかわれていたのではと思う。

魚とエゴノキ。変な取り合わせだが

大いに関係があった。エゴノキの果実（写真参照）の果皮は「エ」サポニン」といっ物質を含んでいるといわれ、つぶして川に流すと小魚が仮死状態となって浮上するという。今だと何とか言う法律に触れるかもしれないが、縄文時代には生活の一部だったのかもしれない。

そしてもう一つの魚のお話。私は昔、釣に凝っていた時があった。その頃、東京で言う「ヤマベ」の釣餌に「チシヤムシ」というのがあった。これが実はエゴノキの果実の中にある虫なのである。ある時、北山公園で実を拾っている人がいたので聞いてみた。拾う目的は「釣餌」。虫が入っている確率は「約六十％」であった。しかし、下宅部の縄文人は金属の釣針を持っていない。つまり、ミリ単位の虫を餌に出よう筈はない。

### 育てる会 会員募集

みなさんも育てる会の仲間たちと一緒に、下宅部遺跡はっけんのもりを成長させませんか？

正会員：会費年間1200円  
通信会員：会費80円切手12枚

お申し込み：ふるさと歴史館

☎042(396)3800まで

## 育てる会

### 今後の予定

- 9月7日(日) 午後1時30分から  
縄文土器部会(ふるさと歴史館)
- 9月13日(土) 午前6時から  
除草・清掃作業(はっけんのもり)
- 9月20・21日(土・日)

第77回育てる会「宿泊研修見学会」

(新潟県十日町市・津南町)

9月27日(土) 午前6時から

除草・清掃作業(はっけんのもり)

9月28日(日) 午後1時30分から

縄文土器部会(ふるさと歴史館)

9月30日(火) 午後1時30分から

縄文アンギン部会(ふるさと歴史館)

10月1日(水) 午後7時30分から

定例検討会議(ふるさと歴史館)

### ダウンロードのお知らせ

「みんなでつくりよう！下宅部遺跡はっけんのもり」の各記事を、インターネットからダウンロードすることが出来ます。「東村山市ホームページ」↓「ふるさと歴史館」↓「下宅部遺跡」↓「はっけんのもり」↓「ニュース」と開くか、検索サイトで「下宅部遺跡はっけんのもりニュース」で検索をかけて下さい。カラーでご覧いただけます。